

今、何の病気が流行しているか！

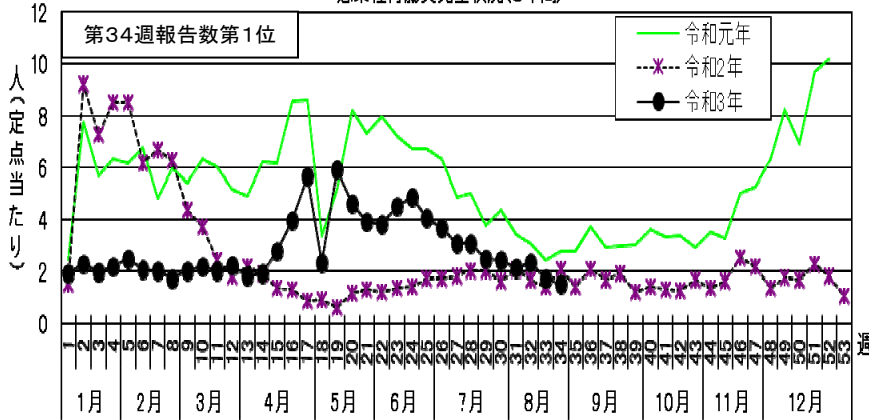
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月23日（月）～令和3年8月29日（日）〔令和3年第34週〕の感染症発生状況

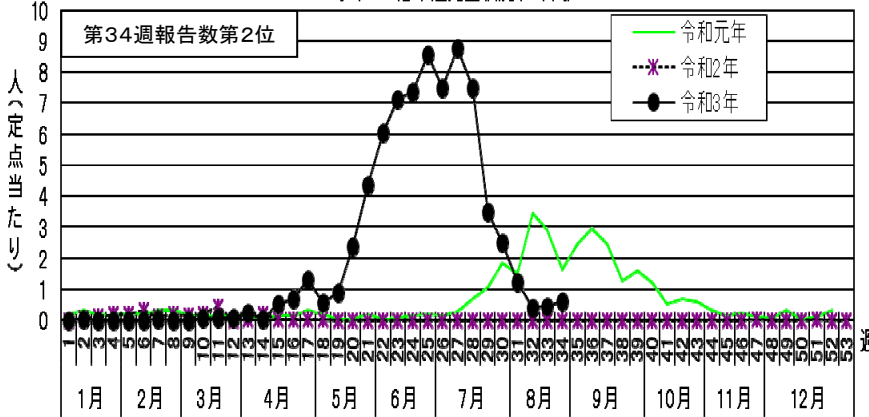
第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.51人と前週（1.70人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.45人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.48人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



RSウイルス感染症発生状況(3年間)

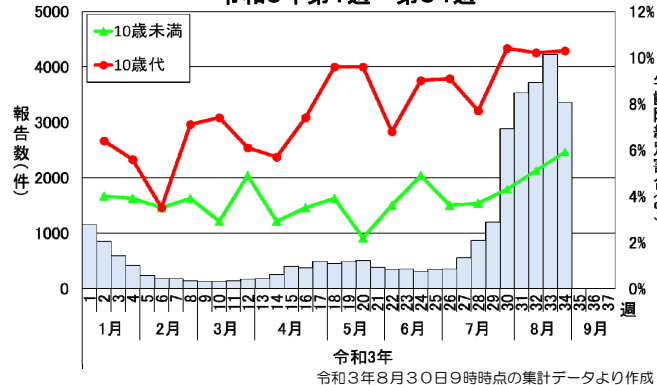


新型コロナウイルス感染症～小児の割合が増加！～

全国的に、7月下旬から新型コロナウイルス感染症患者が急増し、それに伴って小児の感染者の割合も増加しています。小児から大人に感染が広がるケースも増えており、特に3歳以下のお子さんは大人と密着する機会が多いことから、家庭内で大人に感染させるリスクが小児の中では最も高いといわれています。小さなお子さんがいる御家庭では、家庭内感染を防ぐためにも、可能であれば保護者などへのワクチン接種をおすすめします。

また、家庭内で濃厚接触者となった御家族への感染リスクは、初発患者の発症2日前から3日後までが最も高かったとの報告もあります。この期間は特に御注意いただき、感染対策を徹底しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況及び年齢階級別割合
—令和3年第1週～第34週—



新型コロナウイルス感染症の時期による家庭内感染リスクの違い



COVID-19 Transmission Dynamics Among Close Contacts of Index Patients With COVID-19 より作成